

学習支援システム (WebClass)

システム管理者マニュアル

v12 (Mar. 2025)

目次

目次	2
ようこそ学習支援システム(WebClass)へ	4
学習支援システム(WebClass)を利用する前に	4
動作環境	4
学習支援システムにログインする	7
学習支援システムをログアウトする	9
学習支援システム(WebClass)の授業とユーザ	10
授業に作成できる教材について	10
取り込むことができるファイルの種類	11
ユーザの種類と役割について	13
システム管理者の画面と機能	15
システム管理者メニューについて	15
学習支援システム(WebClass)を設定する	17
システム管理について	17
学習支援システム(WebClass)をアップデートする	19
システムオプションを設定する	20
学習支援システム(WebClass)のメンテナンス	21
変更できるアカウント情報を設定する	21
画面表示のカスタマイズ	22
機能のカスタマイズ	23
ユーザ認証の設定	28
外部システムとの連携	31
学習支援システム(WebClass)サーバの設定	33
LTI ツールと連携する	34
ユーザを登録する	37
ユーザ管理について	37
外部認証を設定する	37
ユーザを登録する	39
ユーザ情報を変更する	40
ユーザを一括登録する	41
ユーザリストを使ってユーザ情報を一括更新する	43
ユーザの履歴データをアカウント間で移行する	44
授業を作成する	45

授業管理について	45
授業を登録する	47
授業と授業メンバーを一括登録する	47
授業&メンバーリストを使って授業情報とメンバーを一括更新する	50
授業のリンク集を作成する	51
教材を別の授業へコピーする	51
教材リンクを作成する	52
稼働状況を集計する	53
システム情報について	53
異常終了データを削除する	53
アクセスログをダウンロードする	54
各授業の利用状況を確認する	55
より深く学習支援システム(WebClass)を知る	56
リンク集	56

ようこそ学習支援システム (WebClass) へ

e-Learning は自由な時間や場所で学生のペースや達成度に応じた学習を行うことができる環境を提供します。そして、教材や成績の管理を自動化することができます。

学習支援システム (WebClass) は教員や学生、管理者すべてのニーズに応えることのできる日本の大学のためにつくられた e-Learning システムです。テストやアンケート、授業資料などの教材を簡単に作成でき、また成績データを管理しやすくします。

学習支援システム (WebClass) はパソコンが苦手な人でも簡単に操作できます。そして、使い慣れている Word や Excel、PowerPoint などで作成されたドキュメントファイルを取り込むことができます。そのため、教員の負担を減らすことができます。また、Windows や Mac、Linux などの環境に左右されないのが、多様なニーズに合わせて教材を提供することが可能です。このマニュアルでは、システム管理者の画面での操作について説明します。

学習支援システム (WebClass) を利用する前に

まず、学習支援システム (WebClass) を利用するために必要な環境が整っているか確認し、実際に学習支援システム (WebClass) を始めてみましょう。

動作環境

学習支援システム (WebClass) のシステム管理者メニューでは、以下のブラウザをサポートしています。

なお、ブラウザの設定やプラグインなどによっては、学習支援システム (WebClass) が正常に動作しないことがあります。



JavaScript の実行と Cookie を許可しなければいけません。また、Apple 製 OS のロックダウンモード機能では Web ブラウズに関する通信や左のような Web 技術に制限がかかるため、本機能有効にした状態での学習支援システム (WebClass) の動作は保証できません。



リンクをクリックしてもウィンドウが開かない場合、ポップアップブロックを無効にしてください。



スリープモードや学習支援システム(WebClass)を表示しているブラウザのウィンドウがアクティブではない場合、学習支援システム(WebClass)はセッションを更新できません。2時間以上セッションが更新されない場合、ログアウトする場合があります。また、スマートフォンやタブレットが省電力モードの時、ブラウザなどの機能を制限します。十分充電した状態でご利用ください。

ブラウザ:

インターネットに接続している Windows、Mac、Linux パソコンから、以下のブラウザの最新版で学習支援システム(WebClass)をご利用いただくことを推奨します。

- Firefox
- Firefox ESR
- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Safari

ディスプレイ:

推奨するディスプレイの解像度は 1280×768 以上です。

学習支援システムにログインする

学習支援システムを使うには、Google Chrome のような Web ブラウザを使います。Windows の場合、Microsoft Edge、Mac では、Safari も推奨しています。パソコンやスマートフォンなどで Web ブラウザを起動し次のアドレスを入力します。学習支援システム (WebClass) へログインし、授業リスト画面を表示する方法を説明します。では、ブラウザを起動してください。

<https://hoppii2025.hosei.ac.jp>



Copyright(c) Hosei University. All rights reserved.

ログインページでポータル ID とパスワードを入力して認証します。

統合認証ログインページ

ユーザ名とパスワードを入力して"ログイン"ボタンを押下してください。

ユーザ名

パスワード

ログイン状態を記憶しない

ユーザ情報送信の同意を解除する

ログイン

統合認証ログインページで、ユーザーID・パスワード入力を入力してログインします。



ポータルの「学習支援システム (WebClass)」をクリックします。



学習支援システム (WebClass) のシステム管理者の画面が表示されます。

学習支援システムをログアウトする

The screenshot shows the administrator interface of the Learning Support System. At the top, a blue navigation bar contains the text 'ログアウト' (Logout) in white, which is highlighted with a red box. To the right of this bar are links for 'メッセージ' (Messages) and 'アカウント情報の変更' (Change Account Information). Below the navigation bar, a grey header indicates the current user: 'システム管理者メニュー' (System Administrator Menu) and 'DEMO 管理P さんがログイン中' (DEMO Management P is logged in). A vertical sidebar on the left contains several menu items, each with a plus sign icon: '学習と振り返りの記録' (Learning and Reflection Records), 'ユーザ管理' (User Management), '授業管理' (Class Management), '教材管理' (Material Management), '学習記録ビューア' (Learning Record Viewer), 'システム管理' (System Management), and 'システム情報' (System Information). The main content area is titled 'システム管理者メニュー' (System Administrator Menu) and is divided into three sections: '新着メッセージ' (New Messages), 'ユーザ管理' (User Management), and 'システム情報' (System Information). The '新着メッセージ' section shows a table with columns for '授業' (Class), '差出人' (Sender), 'ユーザID' (User ID), '件名' (Subject), and '日付' (Date), with a message that '新しいメッセージはありません' (No new messages). The 'ユーザ管理' section lists options like '登録/変更/削除' (Registration/Modification/Deletion), '一括登録/変更/削除' (Batch Registration/Modification/Deletion), and 'ユーザリストのダウンロード' (Download User List). The 'システム情報' section displays 'Version 12.0.0' and 'アップデート' (Update), along with system status details like 'ログイン状況' (Login Status), 'アクセスログ' (Access Log), '利用状況集計' (Usage Statistics), 'システムログファイル' (System Log Files), and 'ディスク使用領域: 10.51 GB / 48.91 GB' (Disk Usage: 10.51 GB / 48.91 GB).

画面左上の「ログアウト」をクリックします。

学習支援システム (WebClass) の授業とユーザ

学習支援システム (WebClass) では授業ごとに教材や成績データを管理します。授業とは「授業科目」や「講座」、「ゼミナール (セミナー)」、「研究室」に相当します。1 つの授業を必ず 1 人以上の授業管理者が担当し、e-Learning 教材を作成したり、成績データを管理したりします。なお、ユーザが教材を受講するには、授業メンバーとして登録されていなければいけません。

授業に作成できる教材について

授業管理者はシステム管理者によって割り当てられた授業に 5 種類の教材を作成することができます。

- **会議室**: 授業掲示板や Wiki、チャットはグループ学習で利用することができます。
- **資料**: デジタル教科書を作成することができます。
- **テスト/アンケート**: さまざまな形式で出題することができます。
- **ユニット**: 会議室や資料、テスト/アンケート教材を組み合わせる教材です。

取り込むことができるファイルの種類

学習支援システム (WebClass) は、Word や Excel、PowerPoint といった、使い慣れているアプリケーションで作成したデータを教材に取り込むことができます。学習支援システム (WebClass) の資料教材やテスト/アンケート教材などに取り込むことができるファイルの種類は以下の通りです。

ファイルの種類	説明
Word	DOC、DOCX、DOCМ 形式のみ 画像は対応していますが、音声や動画、アニメーションには対応していません DOCМ 形式 (マクロ有効文書) を取り込むことはできませんが、変換時にマクロは取り除かれます
Excel	XLS、XLSX、XLSM 形式のみ 画像は対応していますが、音声や動画、アニメーションには対応していません XLSM 形式 (マクロ有効文書) を取り込むことはできませんが、変換時にマクロは取り除かれます
PowerPoint	PPT、PPTX、PPTM 形式のみ 画像は対応していますが、音声や動画、アニメーションには対応していません PPTM 形式 (マクロ有効文書) を取り込むことはできませんが、変換時にマクロは取り除かれます
OpenOffice.org LibreOffice	ODT、ODS、ODP 形式のみ
PDF	PDF ファイルはそのまま埋め込まれます
テキスト	TEXT ファイル、CSV ファイル (一括登録)
HTML	HTML4、5 や XHTML1 で書かれた HTML ファイル (ファイル名は半角英数字) 複数の HTML ファイルや CSS ファイル、画像ファイルを含む場合、各ファイルへのリンクは相対パスで指定し、圧縮してから取り込んでください (index.html を優先的に表示します)
LaTeX	LaTeX のソースファイル latex2html を用いて HTML に、数式は画像に変換されます
画像	BMP、JPEG、GIF、PNG 形式
動画	MP4 (H.264/MPEG-4 AVC、AAC もしくは MP3) 形式を推奨します なお、MPG、AVI、WMV、MOV は取り込むことはできませんが、ブラウザやそのプラグイン、メディアプレイヤーによっては再生できない場合があります
音声	MP3、AAC (M4A) 形式を推奨します なお、WAV (WAVE) は取り込むことはできませんが、ブラウザやそのプラグイン、メディアプレイヤーによっては再生できない場合があります
その他	HotPotatoes 6、SCORM1.2/2004 (3rd Edition まで)、ChemBioDraw (ChemDraw)、ChemBio3D (Chem3D) など

-  ドキュメントファイルやマルチメディアファイルを開くには、アプリケーションやブラウザのプラグインが必要です。
-  ドキュメントファイルは OpenOffice.org もしくは LibreOffice を用いて HTML もしくは PDF に変換します。変換精度はオリジナルの Word、Excel、PowerPoint ファイルと比べて、HTML 変換では約 70%、PDF 変換では約 90% です。オリジナルのレイアウトやフォントなどを完全に再現できるわけではありません。必要に応じて、PDF 形式で作成しファイル取り込みするか、ファイルを添付してください。
-  XLS、XLSX、XLSM、ODS 形式をファイル変換するには、システムを設定する必要があります。また、PowerPoint ファイルは HTML に変換できません。
-  HTML もしくは PDF 変換できるファイルの最大サイズは 20MB です。変換が伴わない場合は、最大 300MB (サーバによっては 200MB) のファイルをアップロードすることができます。

-  CSV ファイルは国際規格の RFC 4180 に準拠した Excel などで編集してください。CSV ファイルをメモ帳などのテキストエディタで編集する場合は、カンマ(,)とカンマの間の値にダブルクォート(")、カンマ、改行などの制御文字を含める場合、値をダブルクォートで囲みます。また、値内のダブルクォートは二重化("")します。値にエスケープ文字「¥」があると、正常に取り込めないことがあります。
-  MP4(H.264/MPEG-4 AVC, AAC もしくは MP3)動画は HTTP ライブストリーミング(HLS)に対応しています。機能を有効にするには、日本データパシフィック株式会社サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

ユーザの種類と役割について

学習支援システム (WebClass) 上で行うことができる操作は割り当てられたユーザ権限 (種類) によって異なります。システム管理者はユーザ権限を適切に設定しなければいけません。

	Admin	Author	TA	SA	Observer	User	Guest
アカウント作成	○	×	×	×	×	×	×
授業登録	○	×	×	×	×	×	×
システムの保守	○	×	×	×	×	×	×
授業メンバー登録	○	○	○	×	×	×	×
資料作成	○	○	○	○	×	×	×
課題作成	○	○	○	×	×	×	×
教材受講	○	○	○	○	○	○	○
出席管理	○	○	○	○	○	×	×
出席確認	○	○	○	×	○	×	×
採点・成績管理	○	○	×	×	○	×	×
成績確認	○	○	×	×	○	○	○
授業のバックアップ	○	○	○	×	×	×	×
メッセージの送受信	○	○	○	○	○	○	×

まず、**システム管理者 (Admin)** はユーザアカウントと授業を作成し、各授業に授業メンバーとしてユーザを割り当てます。



システム管理者のプロフィールに学部を設定すると、学部管理者として、設定された学部の授業に対してのみ操作することができます。学部管理者は学科情報の指定や授業の設定、授業内の教材の確認、学部および学科情報が設定されたユーザ情報から授業メンバーを検索して登録することができます。なお、学部管理者はシステム全体に関する操作はできません。本機能を利用するには、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。

次に**授業管理者 (Author)** は割り当てられた授業に教材を作成します。そして、教材を実施し、成績データを管理します。

なお、特定の授業メンバーに授業補助をしてもらうため、システム管理者と授業管理者は **TA** や **SA** へユーザの授業権限を変更することができます。TA は授業管理者の代理として授業運営を行うことができます。また、SA は授業を円滑に進めるアシスタントとして教材を実施します。Author や TA, SA は上の授業権限が付与されています。デフォルトの設定から変更された場合、「Author (その他)」と表示されます。

オブザーバ (Observer) は教務などの学校職員が使用します。学校運営に関する連絡を学習支援システム (WebClass) ユーザに通知することができます (この時、システムオブザーバーとしてお知らせを発行します)。

ユーザ (User) は授業メンバーに登録されている授業で教材を受講することができます。公開講座などのように**ゲストユーザ (Guest)** にも公開された一部の教材は、ユーザアカウントがなくても受講することができます。

ステータスについて:

学習支援システム(WebClass)では、ユーザに以下のステータスを付与することができます。学籍などユーザの状況によって、適切なステータスを設定する必要があります。

ステータス	ログイン許可	説明
アクティブユーザ	○	ユーザは権限に従って全ての操作を行うことができます 行うことができる操作は「ユーザの種類と役割について」をご確認ください
制限ユーザ	○	制限ユーザは、学習支援システム(WebClass)授業へアクセスできなくなりますが、学習記録ビューアおよびプラグインは利用できます システム管理者や授業管理者は、制限ユーザが行ってきた学習支援システム(WebClass)での活動情報や成績などを集計することができます なお、制限ユーザは登録可能ユーザ数には計上されないため、卒業生に割り当てることができます
期限切れユーザ	×	システム管理者や授業管理者は、期限切れユーザが行ってきた学習支援システム(WebClass)での活動情報や成績などを集計することができます なお、期限切れユーザは登録可能ユーザ数には計上されません
休止ユーザ	×	成績や学習履歴、ログイン状況、アクセスログなどの情報は削除されませんが、集計から除外されます 授業メンバー登録や休止ユーザ宛にメッセージ送信はできません
削除済みユーザ	×	ユーザを削除すると、アカウント情報や回答、成績を復元することはできません

システム管理者の画面と機能

システム管理者はユーザや授業を管理したり、連絡事項を通知したりします。また、必要に応じてシステムをアップデートするなどの保守を行います。この章ではシステム管理者が使用する画面や機能の概略を説明します。

システム管理者メニューについて

学習支援システム(WebClass)にログインします。すると、システム管理者メニュー画面が表示されます。この画面から学習支援システム(WebClass)を管理するために必要な機能を利用することができます。



新着お知らせタブには、システム管理者および授業管理者が発行した事務や教務に関する連絡事項などが表示されます。また、未読のメッセージは**新着メッセージタブ**に表示されます。お知らせおよびメッセージの詳細を確認するには、件名をクリックしてください。

メッセージではメッセージを送信したり、送受信したメッセージを閲覧したりできます。詳しくは「**エラー！ 参照元が見つかりません。**」をご覧ください。

学習支援システム(WebClass)で授業を行うには、システム管理者が**ユーザ管理**と**授業管理**でユーザと授業を事前に登録しなければいけません。

学習記録ビューアは学習支援システム(WebClass)に蓄積された学習履歴や大学での活動データを集め、成果を振り返ることに適した形に変換された情報管理体系を提供します。詳しくは「学習記

録ビューア オンラインマニュアル」([https:// 学習支援システム \(WebClass\).jp/manuals/admin/integrated-portfolio/](https://学習支援システム(WebClass).jp/manuals/admin/integrated-portfolio/))をご覧ください。

システム管理者は**システム管理**で学習支援システム (WebClass) をセットアップしたり、定期的に学習支援システム (WebClass) をアップデートしたりする必要があります。また、**システム情報**では学習支援システム (WebClass) へのアクセス状況をモニタリングすることができます。

マニュアルやユーザを一括登録もしくは削除する時に使用するサンプルファイルをダウンロードすることができます。

学習支援システム (WebClass) を設定する

システム管理者は、いろいろな機能を利用できるようにするために学習支援システム (WebClass) をセットアップする必要があります。この章ではメールサーバやシステムオプションの設定、システムの更新について説明します。

システム管理について

システム管理者メニューに表示される「システム管理」をクリックし、メニューを展開します。



システム管理者は学習支援システム (WebClass) のセキュリティを保つために**学習支援システム (WebClass) のアップデート**を行う必要があります。また、登録ユーザが増え、ライセンス数が不足したら、新しいライセンスを申請し、**ライセンス数の変更**を行います。

システムオプションの設定では機能や画面表示のカスタマイズなどのオプションを設定できます。また、メールサーバを用意している場合、**メール機能設定**を行うことでユーザは学習支援システム (WebClass) からの通知をメールで受け取ることができるようになります。

定期的なバックアップの重要性:

人為的なミスやプログラムの不具合、ハードウェアの故障、災害などにより、学習支援システム (WebClass) サーバのデータが紛失することがあります。障害が発生した際に速やかにシステムを復旧させるため定期的にバックアップすることをおすすめします。

対象	教材データ	成績データ	サーバ設定
範囲	/var/www/学習支援システム (WebClass) 以下	PostgreSQL の dump ファイル	/etc 以下
保存形式	実ファイル	gz	tar.gz
保管場所	ストレージサーバもしくは外付け HDD		
バックアップ方法	rsync、FTP、SCP、NFS など		
頻度	日次	日次	月次
保存世代数	1	7	1

復旧時に必要となるデータ (バックアップの対象となるデータ) は、教材および成績データ、学習支援システム (WebClass) サーバの設定ファイルです。それらのデータを学習支援システム (WebClass) が稼働している HDD とは別の HDD へ rsync などを用いてバックアップしてください。特に成績データは細かくバックアップを取ることをおすすめします。

ディスクの空き容量を確保する:

学習支援システム (WebClass) サーバのコンテンツ領域について、システム管理者メニュー画面の「システム情報」に表示される「HDD 空き容量」が 512MB 未満の時、「ハードディスクの空き容量が少なくなっています。」と表示されます。ハードディスクの空き容量が足りない場合、ログインや集計などができなくなるといったシステム障害が発生します。

不要ファイル削除では古い一時ファイルやログファイルを削除することで学習支援システム (WebClass) サービスが稼働するために必要なハードディスクの空き容量を確保することができます。



不要ファイルの削除は一時的な対策です。ハードディスクを増設もしくは教材データを削除する必要があります。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。

一時ファイルの削除

セッションログの削除

エラーログの削除

授業メンバー一括録ログの削除

一時ファイルの削除の[削除可能サイズの計算]ボタンや各種ログファイルの年次ボタンをクリックすると、削除されるファイル数と確保できるサイズが表示されます。問題がなければ、[削除]ボタンをクリックします。なお、完了した削除処理を取り消すことはできません。

- **一時ファイル**: ファイル取り込みや集計データの生成などの内部処理で一時ファイルが作成されます。一時ファイルはユーザが処理操作を行った時に削除されますが、残ったままとなる場合があります。3 日前より古い一時ファイルを削除することができます。
- **セッションログ**: ログインしたユーザの操作は操作履歴としてログファイルに記録されます。このログファイルは問題の原因調査や誤って削除された成績データの復元のため使用されますが、1 年前より古いログファイルは削除することができます。
- **エラーログ**: 学習支援システム(WebClass)で発生したシステムエラーはエラーログとしてログファイルに記録されます。このログファイルはシステム障害や不具合の原因調査のため使用されますが、1 年前より古いログファイルは削除することができます。
- **授業メンバー一括登録ログ**: 授業メンバーを一括登録した時、その処理結果と使用した CSV ファイルのバックアップファイルが保存されます。システム管理者メニュー「授業管理」>「授業&メンバーの一括登録」の画面下部「授業登録情報の履歴」を確認し、問題がなければ、削除することができます。

学習支援システム(WebClass)をアップデートする

機能追加や不具合修正などを含んだ修正プログラム(アップデートファイル)が定期的にリリースされるので、必ずアップデートしてください。

システム管理者メニュー「システム管理」>「学習支援システム(WebClass)のアップデート」を開きます。アップデートファイルを解凍せずに指定し、[登録]ボタンをクリックしてください。

- 1 学習支援システム(WebClass)をアップデートする際は教材や成績などのデータをバックアップすることをおすすめします。詳しくは「定期的なバックアップの重要性:」をご覧ください。
- 2 学習支援システム(WebClass)をメンテナンスモードに移行し、システム管理者メニュー「ログイン状況」から他のユーザがアクセスしていないことを確認してください。
- 3 アップデートの際はブラウザの Proxy 設定を必ず無効にしてください。正しく更新されない場合があります。
- 4 アップデートが完了するまで時間がかかることがあります。アップデート処理の途中で操作を行うと、アップデートが失敗するため、完了するまでそのままお待ちください。

アップデートファイルが古い場合は、警告画面が表示され、プログラムは更新されません。正しくアップデートが完了します。すると、バージョン番号が上がります。

ライセンス数を変更する:

ライセンスによって登録できるユーザ数が異なります。もし、登録可能ユーザ数が不足する場合は、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。当社から新しいライセンスキーファイルをお送りします。

システムオプションを設定する

システム管理者はシステムオプションを設定することで、学習支援システム(WebClass)の見た目や機能などをカスタマイズすることができます。



学習支援システム(WebClass)の動作に影響するため、システムオプションについてよく理解した上で設定してください。不明な点は日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。



機能を有効化するためにサーバ設定が必要な場合があります。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

- HLS 機能
- 試験モード機能
- 類似レポート検知機能(PDF 対応)
- 各種システムとの連携機能
- 授業掲示板「投稿されたメッセージを‘保留’にする」オプション
- ルーブリックのテンプレート
- マニュアルダウンロード画面からダウンロードできるファイル

主なシステムオプションについて説明します。システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」をクリックしてください。

[更新] ボタン

項目	値
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_USERNAME	1
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_PASSWORD	1
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_MAIL	1
PASSWORD_POLICY_MIN_LENGTH	8
PASSWORD_POLICY_UPPER_REQUIRED	1
PASSWORD_POLICY_SYMBOL_REQUIRED	1
PASSWORD_POLICY_LOWER_REQUIRED	1
PASSWORD_POLICY_NOT_INCLUDE_USERNAME	1

システムオプションを設定後、[更新] ボタンをクリックし、変更を反映させてください。また、システムオプションを変更したことで不具合が発生していないか確認してください。

学習支援システム(WebClass)のメンテナンス

学習支援システム(WebClass)のアップデートやサーバの保守作業を行う時、トラブルを避けるためにシステム管理者以外のユーザがログインできないようにメンテナンスモードにします。「システムオプションの設定」>「Maintenance」をクリックしてください。

オプション名	設定値	説明
MAINTENANCE_MODE	0(無効) 1(有効)	メンテナンスモードではシステム管理者以外のユーザがログインできなくなります
MAINTENANCE_MESSAGE	文字列	メンテナンスモード時に表示するメッセージ



メンテナンスモード時に表示される「MAINTENANCE_MESSAGE」は、ログアウトを促すメッセージを入力します。ただし、言語設定の切替に対応していないので、日本語と英語のメッセージを両文併記してください。

変更できるアカウント情報を設定する

ユーザ自身が設定できるアカウント情報を設定するには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Accounts」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_USERNAME	0(許可) 1(禁止)	ユーザが氏名を変更することを禁止する
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_PASSWORD	0(許可) 1(禁止)	ユーザがパスワードを変更することを禁止する
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_MAIL	0(許可) 1(禁止)	ユーザがメールアドレスを変更することを禁止する

ユーザがパスワードに設定できる文字を制限するため、パスワードポリシーを設定することができます。パスワードとして利用できる文字については「ユーザを登録する」をご確認ください。

オプション名	設定値	説明
PASSWORD_POLICY_MIN_LENGTH	5	パスワードの長さが最小文字数以上となるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_NUMBER_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列に必ず数字を含めるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_SYMBOL_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列に必ず記号を含めるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_UPPER_LOWER_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列に必ず英大文字小文字を含めるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_NOT_INCLUDE_USERNAME	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列にユーザIDを含めることを禁止します
PASSWORD_POLICY_NOT_INCLUDE_EMAIL	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列にメールアドレスを含めることを禁止します

画面表示のカスタマイズ

ログイン画面や授業リスト画面上の表示をカスタマイズできます。ログイン画面をカスタマイズするには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Login」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
LOGIN_FORM	type-a type-b type-c	ログイン画面を変更する
DEFAULT_LANGUAGE	JAPANESE	ログイン画面を開いた時に使用される言語
AUTO_LANGUAGE_RECOGNITION	0(無効) 1(有効)	ブラウザの言語設定に従って自動的に表示言語が切り替わります
WELCOME_MESSAGE_JP WELCOME_MESSAGE_ENG	文字列	ログイン時のメッセージを変更する
FOOTER_MESSAGE	文字列	フッターに表示される「Powered by 学習支援システム (WebClass)」を変更することができます
HIDE_GUEST_LOGIN	0(許可) 1(禁止)	ゲストユーザによるログインを禁止する
LOGIN_TOKEN_CHECK	0(無効) 1(有効)	ログインフォームでの認証でトークンチェックを行います
LOGIN_TOKEN_CHECK_BLOCK_TIME	秒数	ログインに一定回数失敗した時にログインをロックしておく時間
MAXIMUM_LOGIN_FAILURE	0(無制限) 自然数(試行回数)	設定回数以上、ログインを失敗します。すると、ブラウザを再起動しない限り、ログインできなくなります

「Semester」では授業リスト画面に表示される時間割の表示を変更します。

オプション名	設定値	説明
FIRST_SEMESTER_MONTH	4	1 学期の開始月
FIRST_SEMESTER_DATE	5	1 学期の開始日
SECOND_SEMESTER_MONTH	9	2 学期の開始月
SECOND_SEMESTER_DATE	20	2 学期の開始日
THIRD_SEMESTER_MONTH		3 学期の開始月
THIRD_SEMESTER_DATE		3 学期の開始日
FOURTH_SEMESTER_MONTH		4 学期の開始月
FOURTH_SEMESTER_DATE		4 学期の開始日
FIFTH_SEMESTER_MONTH		5 学期の開始月
FIFTH_SEMESTER_DATE		5 学期の開始日
NO_OF_WEEKS_IN_SEMESTER	15	1 学期あたりの週数(授業数)



「FIRST_SEMESTER_MONTH」と「FIRST_SEMESTER_DATE」は、必ず設定してください。

また、授業リスト画面上に表示されるお知らせやメッセージなどをカスタマイズするには、「システムオプションの設定」>「TopPage」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
SHOW_TABS_IN_COURSE_LIST	0(非表示) 1(表示)	授業リスト画面上のお知らせおよびメッセージタブを表示する
INFORMATIONS_TABPANEL_LISTNUM	空欄もしくは数字	「お知らせ」に表示するお知らせの数
INFORMATIONS_TABPANEL_UNREAD_ONLY	0(新着) 1(未読)	表示されるお知らせを「新着」から「未読」へ変更する
SHOW_SEMESTER_SWITCH_IN_COURSE_LIST	0(非表示) 1(表示)	今期の時間割のみ表示する
HIDE_SCHEDULE_TABLE	0(表示) 1(非表示)	時間割を表示する
SHOW_ALL_AVAILABLE_COURSE	0(非表示) 1(表示)	授業リスト画面にメンバー登録済みの授業をすべて表示する
SHOW_USER_CONFIG	0(無効) 1(有効)	アカウント情報の変更画面を無効にする
SHOW_USER_MANUAL	0(無効) 1(有効)	マニュアルダウンロード画面を無効にする
FAQ_URL	URL 空欄(非表示)	アカウントメニューにFAQを追加します
LOG_VIEWER_AUTHOR_OPEN	0(非表示) 1(表示)	授業管理者の授業リストに学習記録ビューアへのリンクを表示する
LOG_VIEWER_USER_OPEN	0(非表示) 1(表示)	ユーザの授業リストに学習記録ビューアへのリンクを表示する

機能のカスタマイズ

「システムオプションの設定」>「Course」では、授業内の機能を設定することができます。

オプション名	設定値	説明
DEFAULT_MEMBER_MODE_LIMITED	0(無効) 1(有効)	授業を新規作成する時、メンバー限定モードをデフォルトとする
HIDE_IPADDRESS	0(表示) 1(非表示)	アクセスログにおいてIPアドレスを非表示にする
TEACHERS_REVIEW_COMMENT	0(無効) 1(有効)	講評機能を有効にする
USE_OPEN_SYLLABUS	0(無効) 1(有効)	シラバスを外部公開する
ALLOW_PORTFOLIO_DOWNLOADING	0(禁止) 1(許可)	ユーザ権限で解答履歴をダウンロードすることを許可する

オプション名	設定値	説明
PORTFOLIO_STYLE	「csv」もしくは「html」	ALLOW_PORTFOLIO_DOWNLOADING 有効時、ダウンロードできる解答履歴の形式
SHOW_EXAM_RSLT_USER	0(非表示) 1(表示)	試験結果を表示する
USE_PROFILE_COLUMN USE_PROFILE_COLUMN_LIST	0(非表示) 1(表示)	進捗状況一覧画面、成績一覧画面、出席状況一覧画面に学生証番号(student_id)や出席番号(class_order_no)を表示する また、入学年度(admitted_year)、ふりがな(furigana_name)、学科(dept)は出席状況一覧画面に表示できます
USE_GRADEBOOK	0(無効) 1(有効)	成績評価機能を有効にする
GRADEBOOK_OVERWRITE_ALLOWABLE_LIST	文字列	「F,G,H」のようにカンマ区切りで指定した文字列を成績評価の「上書き」として許容する
MAX_GRADEBOOK_EVALUATION_SCORE	数字	成績評価の「評価」の最大値を設定する
SHOW_EXAM_PASSING_RESULT	0(無効) 1(有効)	合格点設定時に点数の代わりに合格を表示する
ATD_SETTING_OPEN_FROM_NOW_OPTION	0(無効) 1(有効)	出席教材の設定で出席確認を現在の日時で開始する場合は有効にします 無効時はカレンダーで設定する必要があります
ATD_SHOW_REQUIRED_COUNT	0(無効) 1(有効)	User の出席状況一覧画面に「必要出席数」を表示します
ATD_STATUS_TYPE	0(点数) 1(ステータス)	出席状況を点数もしくはステータスで表示します
ATD_TITLE_EDIT_ENABLE	0(無効) 1(有効)	出席コマタイトルの編集可否を設定します
ATD_CONSIDER_FOR_STUDENT_HIDDEN	0(無効) 1(有効)	ユーザに出席確認の開始・終了時刻を表示するか設定します
ATD_MAX_DAYS_CONSIDERED_AS_P RESENCE ATD_MAX_DAYS_CONSIDERED_AS_L ATENESS	数字	ATD_SETTING_OPEN_FROM_NOW_OPTION が無効時、出席扱いおよび遅刻扱いの最大日数を変更することができます
ATD_SETTING_HIDE_EDIT_OPTION	0(無効)	出席設定/ログの確認画面で「編集」リンクを非表示にします

オプション名	設定値	説明
	1(有効)	
MINIMUM_SELECTABLE_YEAR_RANGE	数字	集計できるデータの期間を年で指定します
COURSE_NOTE_OPTION	0(無効) 1(有効)	ノート機能を有効にします
AUTHOR_COURSE_REPORTS_OPTION	0(無効) 1(有効)	授業管理者の「成績」メニューおよびレポート/記述式問題の採点画面のレポート一覧画面を有効にします
INFORMATIONS_DEFAULT_OPEN_NUMBER_OF_DAYS	0(無効) 日数	授業管理者がお知らせを新規投稿する際に何日後に公開終了するかデフォルトを設定できます
TRUE_OR_FALSE_STYLE_MULTIPLE_CHOICE	0(無効) 1(有効)	複数選択式で各選択肢を正誤問題として扱う「選択肢ごとに正誤を採点する」オプションを追加します

学習支援システム(WebClass)の機能を有効、無効にするには「システムオプションの設定」>「Features」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
ATTENDANCE_FEATURE	0(無効) 1(有効)	出席機能
COMPILE_QUESTION_DATABASE	0(無効) 1(有効)	問題抽出機能
EPORTFOLIO_OPTION	0(無効) 1(有効)	eポートフォリオ機能
SCORM2004	0(無効) 1(有効)	資料でSCORM2004を取り込めるようにする
SIMILARITY_OPTION	0(無効) 1(有効)	類似レポート検知機能
SIMILARITY_REPORT_FILE_SIZE_LIMIT	単位は MB	検知対象の合計ファイルサイズが設定値以上の時、検知を停止する
SIMILARITY_JOBS_LIST_MAX	数値	類似レポート検知機能で表示するジョブ数
SIMILARITY_RESULTS_LIST_MAX	数値	類似レポート検知機能で表示する比較結果数
TIMELINE_OPTION	0(無効) 1(有効)	タイムライン機能
LTI_OPTION	0(無効) 1(有効)	LTI機能
LTI_ENABLE_CREATE_BY_AUTHOR	0(無効) 1(有効)	AuthorによるLTI設定を許可する
LTI_SCORE	0~100	LTI教材の満点のデフォルト
LTI_REPLACE_CHARACTER_DEFAULT	0(しない) 1(する)	オプション「氏名の環境依存文字を置き換える」のデフォルト

学習カルテ機能をカスタマイズするには「システムオプションの設定」>「Carte」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
CARTE_SHOW_TEACHER_NAME	0(非表示) 1(表示)	自由記述に授業管理者が投稿した時、氏名を記録する
CARTE_COUNTER_DEFAULT	0(無効) 1(有効)	カウンタ設定をデフォルトで有効にする
CARTE_ALLOW_DOWNLOAD	0(無効) 1(有効)	学習カルテをダウンロードできるようにする

その他の挙動を変更するには「システムオプションの設定」>「Others」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
SHOW_SAVE_BUTTON_AT_TEXT_QUESTION	0(無効) 1(有効)	記述式問題に[回答を保存]ボタンを表示する
THEME_COLOR_BLUE	0(無効) 1(有効)	テーマカラーを青に変更する
ENABLE_CONTENTS_LIST_REPORT_STATUS	0(無効) 1(有効)	授業管理者の教材一覧画面に未採点レポート数を表示します
ENABLE_CONTENTS_LIST_EXEC_USERS	0(無効) 1(有効)	授業管理者の教材一覧画面に利用回数ではなくて利用者数を表示します
REPORT_GRADING_EXPORT_REPORT_FILE_NAME_USER_INFO_PATTERN	%{username}_%{realname}	レポート/記述式問題の採点画面でのファイル出力に含まれるレポートファイル名のユーザ情報を「ユーザ ID_氏名」から学生証番号「%{studnet_id}」や出席番号「%{class_order_no}」に変更できません
REPORT_GRADING_EXPORT_REPORT_FILE_NAME_FORMAT	USERNAME_FIRST	レポート/記述式問題の採点画面でのファイル出力に含まれるレポートファイル名の連番とユーザ情報を入れ替えます
COURSE_MEMBER_LIST_UPDATE_LOG_OPTION	0(無効) 1(有効)	授業メンバー管理画面に「メンバーリスト更新ログ」を表示する
FORCE_SHOW_IMPORTANT_MESSAGE	0(無効) 1(有効)	ログイン時にメッセージタイプが指定された Observer のメッセージを強制的に表示する
ENABLE_DRAG_AND_DROP_FILE_UPLOADING_UI	0(無効) 1(有効)	教材編集画面やレポート提出画面においてドラッグ&ドロップでファイルアップロードする
COURSE_DATA_EXPORT_OPTION	0(無効) 1(有効)	アンケート教材の結果をまとめてダウンロードする

ユーザ認証の設定

外部認証などのユーザ認証方式を用いるには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Authentications」をクリックし、オプションを変更します。

オプション名	設定値	説明
AUTOMATIC_USER_REGISTRATION	0(無効) 1(有効)	外部認証に成功したユーザを自動的に学習支援システム(WebClass)に登録する
SELF_REGISTRATION	0(無効) 1(有効)	ログイン画面でユーザ自身にユーザ登録させる ID 自己登録機能を有効にする
SELF_REGISTRATION_PERMITTED_DOMAIN	ドメイン名	ID 自己登録において登録できるメールアドレスの条件を設定する
ALTERNATIVE_LOGIN_ID	学生証番号: 「profile.student_id」	ログイン ID としてユーザ ID 以外の ID を使用する
LDAP_USERID	属性名	ユーザ ID を取得する属性名を設定できます デフォルトは「uid」、「cn」、 「sAMAccountName」です
LDAP_USERID_FILTER	クエリ	ユーザ ID のフィルタクエリを AND 拡張します 例えば、 「(enabledFlag=enabled)(otherInfo=1)」を設定すると、「(uid=XXX)」という通常のクエリは 「(&(enabledFlag=enabled)(otherInfo=1)(uid=XXX))」で検索されます
LDAP_USERID_CASECHECK	0(無効) 1(有効)	LDAP はクエリで大文字小文字を区別しないため、 AUTOMATIC_USER_REGISTRATION が有効時、大文字小文字だけ異なるユーザが自動登録されることがあります 本オプションを有効にすると、学習支援システム(WebClass)は認証時にユーザ ID の大文字小文字をチェックするようになります
LDAP_LOGINID	属性名	ALTERNATIVE_LOGINID で設定されたテーブルのカラムにログイン ID を登録するための属性名です
LDAP_MAILADDRESS_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	ログイン時、ユーザ ID をメールアドレススタイルでの入力を必須にします。無効の場合は「@」より前をログイン ID として扱い、有効の場合はログイン ID としてメールアドレスを使用します
LDAP_USERNAME	属性名	氏名を取得する属性名を設定できます
LDAP_GIVENNAME	属性名	LDAP_USERNAME が設定されていない時、属性名「sn」から姓を、 「givenname」から名を取得し氏名とします
LDAP_EMAIL	属性名	メールアドレスを取得する属性名を設定できます デフォルトは「mail」、 「userprincipalname」です



併せて「外部認証を設定する」をご覧ください。「SELF_REGISTRATION」を有効にする際は、外部認証を設定する必要があります。

シングルサインオンを用いるには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「SSO」をクリックし、オプションを変更します。

オプション名	設定値	説明
CAS	0(無効) 1(有効)	CAS 認証を有効にする
CAS_VERSION	1	使用する CAS のバージョン
CAS_HOSTNAME	ホスト名	CAS サーバのホスト名
CAS_PORT	ポート番号	CAS 認証に使用するポート番号
CAS_URI	ディレクトリ名	CAS 認証に必要なファイルが入っているサーバのディレクトリ名
CAS_SERVER_SERVICE_VALIDATE_URL	URL	Service Validation URL の FQDN が CAS_HOSTNAME と異なる場合に設定します
CAS_AUTOMATIC_USER_REGISTRATION_BY_LDAP	0(無効) 1(有効)	AUTOMATIC_USER_REGISTRATION が有効である場合、CAS によって学習支援システム (WebClass) 未登録ユーザが初めてログインしようとした時に LDAP からユーザ情報を取得して登録する
SSLCLIENTCERT	0(無効) 1(有効)	SSL 証明書を利用したログインを有効にする
SHIBBOLETH_ENABLE	0(無効) 1(有効)	Shibboleth 認証を有効にする
SHIBBOLETH_ENVNAME_USERID	環境変数名	Shibboleth 認証が行われた際に userid にあたる Apache 環境変数名を入力します
SHIBBOLETH_SEPARATOR_USERID		SHIBBOLETH_ENVNAME_USERID の文字列から特定の記号より前を userid として用いる
SHIBBOLETH_ENVNAME_REALNAME	環境変数名	Shibboleth 認証が行われた際に realname にあたる Apache 環境変数名を入力します
SHIBBOLETH_SEPARATOR_REALNAME		SHIBBOLETH_ENVNAME_REALNAME の文字列から特定の記号より前を realname として用いる
SHIBBOLETH_ENVNAME_EMAILADDRESS		Shibboleth 認証が行われた際に email にあたる Apache 環境変数名を入力します
SHIBBOLETH_SEPARATOR_EMAILADDRESS		SHIBBOLETH_ENVNAME_EMAILADDRESS の文字列から特定の記号より前を e-mail アドレスとして用いる
SHIBBOLETH_COOKIE_SESSION_SUBSTR	文字列	Shibboleth 認証が行われた際に Cookie 名を識別するための接頭辞を指定できます
SAMLSPCERT	0(無効) 1(有効)	SAML 認証を有効にする
SAML_LOGIN_URI	URL	ログイン後のリダイレクト先 URL を設定します
SAML_LOGOUT_ENABLE	0(無効) 1(有効)	ログアウト時に SAML でもログアウトを許可する
SAML_LOGOUT_URI	URL	ログアウト後のリダイレクト先 URL を設定します

外部システムとの連携

他システムと連携するには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「External Systems」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
INLINE_SERVERS	URL、IP アドレス	設定したアドレス先の Web 教材を資料教材のフレーム内に埋め込む
DOWNLOAD_THROUGH_CSS_CHECKER	0(非表示) 1(表示)	ファイアウォールの影響で学外からファイルがダウンロードできない場合、専用のダウンロードリンクを表示する
FXLMSLINK_OPTION	0(無効) 1(有効)	富士フイルムビジネスイノベーション(富士ゼロックスブランド) 授業支援ボックスとの連携機能を有効にします
FXLMSLINK_ALLOWED_IPADDRESS	デバイスの IP アドレス	連携を許可する授業支援ボックスの IP アドレスをコンマ区切りで複数設定することができます
FXLMSLINK_USE_STUDENTID	0(ユーザ名) 1(学生証番号)	フォーム用紙の「学生証番号」が学習支援システム(WebClass)のユーザ名ではなく、学生証番号である場合は、「1」に設定します
FXLMSLINK_FORCE_USER_SEARCH_IGNORE_CASE	0(無効) 1(有効)	フォーム用紙の「学生証番号」のアルファベットを大文字小文字区別せずに学習支援システム(WebClass)へ問い合わせる
FXLMSLINK_AUTO_CREATE_CONTENT	0(無効) 1(有効)	授業支援ボックス連携教材自動生成機能を有効にすると、複合機パネルから教材を作成できるようになります
FXLMSLINK_PANEL_SHOW_COURSE_ORDER	0(alphabetic) current newest	複合機パネル上の授業表示順を変更します 「current」の場合、今年度、年度なし順のみを名前順で、「newest」の場合、年度が新しい順で、同一年度を名前順で表示されます
FXLMSLINK_PANEL_CLASS_INFO_PREFIX	0(無効) 1(有効)	複合機パネルに表示される授業名の頭に時間割情報を省略表記します
FXLMSLINK_NOTIFY	0(無効) 1(メッセージ) bbs(授業掲示板)	集計結果転送機能対応の授業支援ボックスでは集計結果をメッセージもしくは授業掲示板に通知できます
FXLMSLINK_NOTIFY_DEFAULT_BBS_NAME	文字列	FXLMSLINK_NOTIFY が「bbs」の時、生成される専用授業掲示板のタイトルを「Notifications」から変更できます

-  授業管理者が資料教材のページ編集画面「テキスト」に「INLINE_SERVERS」で設定したストリーミングサーバや Web ページなどの URL を入力し、ページを作成します。すると、資料教材を開いた時に自動的に動画を再生することができます。
-  連携機能の詳細につきましては日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までお問い合わせください。

学習支援システム(WebClass)から外部の Web ページを開くには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Links」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
PORTAL_LINK_USER_TITLE 1~5	リンク名	授業リスト画面のメニューにユーザ用リンクを 5 個まで作成できます
PORTAL_LINK_USER_URL1 ~5	リンク先の URL	外部リンクの場合は別のウィンドウに表示されます
PORTAL_LINK_AUTHOR_TITLE1~5	リンク名	授業リスト画面のメニューに授業管理者用リンクを 5 個まで作成できます
PORTAL_LINK_AUTHOR_URL1~5	リンク先の URL	外部リンクの場合は別のウィンドウに表示されます
PORTAL_LINK_TITLE1~15	リンク名	授業リスト画面のメニューにリンクを 15 個まで作成できます
PORTAL_LINK_URL1~15	リンク先の URL	外部リンクの場合は別のウィンドウに表示されます
ADM_USER_MNG_ADD_MENU_LABEL ADM_COURSE_MNG_ADD_MENU_LABEL ADM_SYSTEM_MNG_ADD_MENU_LABEL	メニュー名	システム管理者メニューの「ユーザ管理」や「授業管理」、「システム管理」にメニューを追加します
ADM_USER_MNG_ADD_MENU_URL ADM_COURSE_MNG_ADD_MENU_URL ADM_SYSTEM_MNG_ADD_MENU_URL	メニューの URL	システム管理者メニューの「ユーザ管理」や「授業管理」、「システム管理」にメニューを追加します

学習支援システム(WebClass)サーバの設定

「システムオプションの設定」>「Server」ではファイルのアップロードやダウンロード、学習支援システム(WebClass)へアクセスできる URL に関する設定を行うことができます。

オプション名	設定値	説明
MAX_REPORT_SIZE_LOCAL	単位は Byte	提出できるレポートファイルの最大ファイルサイズ(未設定の場合、10MB)



Apache の設定が必要な場合があります。

「システムオプションの設定」>「Mail」ではメール通知に関する設定を行うことができます。

オプション名	設定値	説明
PREVENT_REPLY_TO_AUTOMAIL_WITH_REPLACED_MESSAGE	0(無効) 1(有効)	通知メールにメッセージ本文の代わりにログイン URL を表示する
SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTHH_BCC	0(無効) 1(有効)	メッセージ送信時、すべての宛先を BCC に指定する
SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTHH_SPECIFIC_FROM	0(無効) 1(有効)	メッセージ送信時、送信者のメールアドレスを From としてメールコピーを送信する
MAIL_BCC_MAX_RECIPIENTS	数字	SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTHH_BCC が有効時、1 通ごとに指定される BCC の数 値が「0」の時は全宛先を BCC に追加します
MAIL_BCC_SEND_INTERVAL	秒	SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTHH_BCC が有効時、分割送信されるメールの配信間隔を設定することができます
MAIL_NOT_SET_DISPLAY_NAME	0(無効) 1(有効)	メールヘッダの To、From の表示をメールアドレスのみに強制します
MAIL_CHARSET	UTF-8 (ISO-2022-JP)	メールのヘッダ「charset」および本文の文字コードを変更する
MAIL_TRANSFER_ENCODING	8bit (7bit)	メールのヘッダ「Content-Transfer-Encoding」を変更する
MAIL_SUBJECT_FORMAT_FROM_STUDENT_JP MAIL_SUBJECT_FORMAT_FROM_STUDENT_ENG	プレースホルダ	使用可能なプレースホルダ: 件名: %{title} 授業名: %{course_name} 開講曜日: %{day_of_week} 開講時限: %{class_order} ユーザ ID: %{username} 学生証番号: %{student_id} 氏名: %{realname}
SEND_MSG_COPY	0(無効) 1(有効)	有効時は常時メッセージをメール転送し、無効時は、ユーザがメール転送するかメッセージ作成時に選択できる



メール通知を行うにはメール機能設定が必要です。デフォルトの送信元メールアドレスを設定することができます。詳しくは「エラー! 参照元が見つかりません。」をご覧ください。

LTI ツールと連携する

LTI (Learning Tools Interoperability) とは、LMS などと外部システムを相互連携させるために国際標準化団体 IMS Global Learning Consortium が策定した技術標準規格です。学習支援システム (WebClass) では LTI 1.1, 1.3, Advantage に準拠し、動画配信システムや Web ミーティングなどの外部システムとシームレスに利用したり、外部システムから成績などを取得したりできます。



システム管理者メニュー「システム管理」>「LTI ツール設定」をクリックし、連携する LTI ツールごとに連携設定を登録します。機能を有効にするには、システムオプション「LTI_OPTION」を「1」に設定します。他のオプションについては「システムオプションを設定する」の「機能のカスタマイズ」をご確認ください。

オプション	必須	LTI バージョン	説明
ツール名	○	共通	授業管理者が教材を作成する際にツール名が表示されます
説明		共通	LTI ツール設定画面で表示するツールの説明を入力します
LTI バージョン		共通	LTI ツールの LTI バージョンを選択します
ツール URL	○	1.0	LTI ツールから提供された接続先の URL を入力します 授業管理者によるツール URL 設定を許可した場合入力の必要はありません
コンシューマ鍵		1.0	コンシューマ鍵は接続先の LTI ツールが接続元を一意に識別するための値です コンシューマ鍵が必要かどうか設定や提供方法などは LTI ツールによって異なります
秘密鍵		1.0	秘密鍵は安全な接続を確立するために必要な値です 秘密鍵が必要かどうか、設定や提供方法などは LTI ツールによって異なります

オプション	必須	LTI バージョン	説明
公開鍵の取得方法		1.3	LTI 1.3 による接続に必要な公開鍵の取得方法を選択します 公開鍵取得 URL は「公開鍵セット URL」に、ツールから提供された公開鍵は内容を「公開鍵」に設定します
ログイン URL	○	1.3	LTI 1.3 による接続を開始するための URL を設定します 未指定の場合、ツール URL が参照されます
リダイレクト URL	○	1.3	LTI 1.3 による接続完了後にリダイレクトする URL を設定します 未指定の場合、ツール URL が参照されます
授業ユーザ情報の共有		1.3	LTI Advantage のサービス「Names and Role Provisioning Services」を有効化します LTI ツールが授業からユーザ情報の取得を許可します
ディープリンク		1.3	LTI Advantage のサービス「Deep Linking」を有効化します Deep Linking をサポートする LTI ツールから LTI 教材名やツール URL の取得が可能になります
ディープリンク URL		1.3	Deep Linking 接続時の URL を設定します ツールから指定があった場合は入力してください
ツールによる成績の更新		1.3	LTI Advantage のサービス「Assignment and Grade Services」を有効化します LTI 教材が LTI ツールから成績の更新を許可します
ツールの表示		共通	授業管理者が LTI 教材として利用できるようにするか選択します
カスタムパラメータ		共通	LTI ツールがカスタムパラメータを指定する場合、接続時に追加でパラメータを送信します 値を入力する時は 1 行ごとに「custom_tool_id = 1」、 「custom_tool_name = sample」のようにキーと値を入力し、指示がなければ、空欄にします
デフォルト表示形式		共通	LTI ツールを学習支援システム (WebClass) の教材画面に埋め込むか新規ウィンドウ (タブ) で表示するかを選択します
授業管理者によるツール URL 設定		共通	授業管理者による URL 入力を許可するか選択します 許可した場合、LTI 教材ごとに URL の入力する必要があり、教材ごとに異なる URL が発行される場合にチェックを入れてください

LTI 1.3 ツールと連携する場合は、LTI ツールに学習支援システム(WebClass)のクライアント ID などを設定します。設定に必要な情報は LTI ツール一覧の[詳細]ボタンをクリックして確認します。設定方法は LTI ツールのマニュアルをご確認ください。

ユーザを登録する

システム管理者は初めにユーザを登録しなければいけません。この章では、ユーザを登録および更新、削除する方法を説明します。

ユーザ管理について

システム管理者メニューに表示される「ユーザ管理」をクリックし、メニューを展開します。展開されたメニュー中の「登録/変更/削除」をクリックし、ユーザの登録/変更/削除画面を開きます。



この画面では登録されている学習支援システム(WebClass)ユーザを氏名やユーザ ID、権限、ステータス、認証方法などの**検索条件**で検索することができます。また、**条件の追加**に学生証情報を追加することでユーザを絞り込むことができます。また、追加された条件を解除するには、[x]ボタンをクリックしてください。

 検索条件にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。

検索結果に表示する学生証情報を変更するには、**表示項目**から選択してください。また、ユーザがどの授業に所属しているか確認するには**履修科目一覧**をクリックしてください。

外部認証を設定する

学習支援システム(WebClass)は LDAP や NIS、RADIUS と連携して認証を行うことができます。これによりシステムごとにアカウント(パスワード)を発行する必要がなくなるので、管理授

業を下げるすることができます。外部認証の設定を行うには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「外部認証の設定 (NIS/LDAP)」をクリックします。



NIS+には対応していません。



RADIUS などの他の外部認証方式を利用する際は日本データパシフィック株式会社サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。



外部認証ユーザのパスワードは学習支援システム (WebClass) に保存されません。

外部認証ユーザを学習支援システム (WebClass) に登録するには、CSV ファイルを用いた一括登録を行います。詳しくは「ユーザを一括登録する」をご覧ください。



LDAP:

システムオプション「AUTOMATIC_USER_REGISTRATION」が有効時、ユーザが初めてログインした時に認証が行われ、正しく認証できれば、学習支援システム (WebClass) にユーザ ID が登録されます。自動登録されるユーザは User 権限が与えられます。Author 権限のユーザを登録する場合は、事前に CSV ファイルで一括登録してください。

設定	説明	例
Domain	LDAP サーバのドメイン名	WebClass.jp
BaseDN	検索元となる DN	dc=WebClass,dc=jp
Host	LDAP サーバのホスト名	210.162.218.114
Port	LDAP との通信に利用するポート番号	389
BindDN	LDAP 管理者のユーザ情報	cn=manager,dc=WebClass,dc=jp
BindPW	LDAP 管理者のパスワード	samplepassword

上記の設定を入力したら、[追加] ボタンをクリックします。



ドメイン名が付けられていない LDAP サーバは、1 個まで追加できます。複数の LDAP サーバを設定する際は、必ず「Domain」が重複しないよう設定してください。

NIS:

「NIS ドメイン」とオプションを指定し、[追加] ボタンをクリックします。なお、NIS ドメインは複数追加することができます。

オプションによってNISサーバに登録されているユーザを学習支援システム(WebClass)に登録するタイミングを設定することができます。

- 有効:NISサーバ上の全ユーザを学習支援システム(WebClass)に登録されます。
- 無効:ユーザが学習支援システム(WebClass)に初めてログインした時に登録されます。

ユーザを登録する

ローカル認証ユーザを登録するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「登録/変更/削除」をクリックします。ユーザの登録/変更/削除画面のユーザ登録でユーザ情報を入力し、[新規作成]ボタンをクリックします。

属性	必須	種類	使用できる記号	字数	備考
氏名	○	半角・全角文字	「*?」以外の記号 半角・全角スペース	60	漢字を使用できます
ユーザID	○	半角英数字記号	_.+-=^`~@!#\$&{}	30	重複するユーザIDは登録できません 大文字・小文字は区別されます
パスワード	○	半角英数字記号	_. / ? ; : + * - = ~ @ ` ! " ' # \$ % & < > () [] { } 半角スペース	30	大文字・小文字は区別されます 暗号化し、データベースに保存されます
メールアドレス		半角英数字		250	コンマ区切りで複数のアドレスを登録できます
権限	○	admin author observer user			

パスワード再発行機能を有効にする:

メールサーバを学習支援システム(WebClass)に設定し(「エラー! 参照元が見つかりません。」を参照)、ユーザアカウントにメールアドレスを登録されている場合、パスワード再発行機能を有効にします。すると、ユーザがパスワードを忘れてしまった時にユーザ自身がパスワードを再発行することができます。この機能の利用を希望される場合は、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

ユーザ情報を変更する

学習支援システム(WebClass)では、ユーザ情報登録後に各項目の内容を変更することができます。また、各ユーザのステータスも変更することができます。ステータスについては、詳しくは「ステータスについて:」をご覧ください。

検索条件

表示項目

[検索]ボタン

[更新]ボタン

[制限ユーザにする]ボタン

[休止ユーザにする]ボタン

[アクティブユーザにする]ボタン

- 1 ユーザ ID、氏名などを「検索条件」で指定し、[検索]ボタンをクリックします。



「表示項目」にある項目を選択してから[検索]ボタンをクリックすると、検索結果に表示させることができます。

- 2 情報を変更したいユーザのチェックボックスを選択してから、変更したい項目の内容を書き換えます。
- 3 [更新]ボタンをクリックし、変更を反映させます。

ステータスを変更する:

ステータスを変更したいユーザのチェックボックスを選択してから、[制限ユーザにする]ボタン、[休止ユーザにする]ボタン、[アクティブユーザにする]ボタンをクリックすることでユーザのステータスを変更することができます。



[制限ユーザにする]ボタン、[休止ユーザにする]ボタン、[アクティブユーザにする]ボタンはステータスのみを変更します。ユーザ情報も変更したい場合は、ステータスを変更してからユーザ情報を更新してください。

ユーザを一括登録する

外部認証ユーザや多数のローカル認証ユーザを登録するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「一括登録/変更/削除」をクリックします。そして、サンプルファイルをダウンロードしてください。

また、登録済みのユーザのアカウント情報を変更するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「ユーザリストのダウンロード」をクリックし、ダウンロードしたユーザリストを編集する必要があります。



1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで編集します。画像ファイルを登録する場合は、画像ファイルと編集した CSV ファイルが入ったフォルダを ZIP 形式などで圧縮してください。

フィールド	設定項目	必須	字数	説明
internal_id	内部 ID	削除不可		登録されたユーザに割り振られるユニークな ID
name	氏名	○	60	メニュー画面上に表示されるユーザの名前 外部認証ユーザの場合、省略すると、外部認証サーバの氏名もしくはユーザ ID 情報で登録されます
user_id	ユーザ ID	○	30	学習支援システム (WebClass) にログインするときだけでなく、メッセージやアクセス制限などでユーザを指定する時に必要です
password	ログインパスワード	ローカル認証	30	外部認証ユーザは空欄で設定してください
update_password	パスワード変更			空欄の場合、パスワードは変更されません 新しいパスワードを「password」に <input type="checkbox"/> 入力し、「update_password」に「1」を指定します
email	メールアドレス		250	通知の際に使用するメールアドレス Excel ではなくテキストエディタを使って、コンマ区切りで複数のアドレスを設定する場合、設定値を「”」(ダブルクォーテーション)」で囲みます

フィールド	設定項目	必須	字数	説明
permission	ユーザ権限	○		admin、author、observer、user のいずれかを割り当てます
expire_date	使用期限			「西暦 4 桁.(ドット)月.(ドット)日」形式でログインできる日付を指定します Author はそのユーザの学習履歴や成績を閲覧できます
restricted	制限ユーザ			制限ユーザに変更するには「1」を指定します
suspend	休止ユーザ			休止ユーザに変更するには「1」を指定します
login_id	ログインID		60	システムで設定している場合は、ログイン用の ID として使用できます
student_id	学生証番号		30	学習支援システム(WebClass)のユーザ ID とは別に割り当てる識別番号
student_name	学生氏名		60	別名を指定することができます
furigana_name	ふりがな		60	氏名のふりがなを入力します (name と student_name の区別はありません)
furigana_roma	ふりがな (ローマ字)		60	氏名のふりがなをローマ字で入力します
photo	写真			約 130×130 ピクセルの BMP、JPEG、GIF 形式の画像のファイル名
sex	性別		30	男/女、男性/女性、Male/Female などを入力します
nationality	国籍		60	留学生向けの設定項目です
admitted_year	入学年度		30	ユーザが入学した年度
grade	学年		30	ユーザの学年
university	大学		60	単位互換制度を用いて他大学から受講するユーザ向けの設定です
faculty	学部		60	ユーザが所属する学部名
department	学科		60	ユーザが所属する学科名
classname	クラス名		60	ユーザが所属するクラス名
class_order_no	出席番号		30	クラス内で用いる番号 桁を揃った数字以外では期待通りソートしない場合があります



1 行目のフィールド名 name、user_id、password、update_password、email、permission、expire_date は削除できません。



設定値は CSV ファイル先頭に入力されたフィールド名によって区別されています。なお、「必須」にマークされたフィールドおよびその設定値は必ず入力してください。

1 作成したデータファイルをユーザの一括登録/変更/削除画面で指定します。

2 「差分登録」を指定し、[登録] ボタンをクリックします。



登録および更新には時間がかかることがあります。

ユーザリストを使ってユーザ情報を一括更新する

学習支援システム(WebClass)に登録されているユーザの情報を一括更新もしくは削除するには、ユーザリストを用いることで簡単に行うことができます。システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「ユーザリストのダウンロード」をクリックしてください。



全ユーザだけでなく、指定した日時以降で利用されていないユーザを抽出することができます。

ユーザ情報を一括更新する:

ダウンロードしたユーザリストを Excel などのエディタで開き、ユーザ情報を編集します。ユーザの一括登録/変更/削除画面でユーザリストを指定し、「上書登録」で登録します。



フィールドのデータを変更した場合、新しく入力されたデータでユーザ情報が上書きされます。そのため、password を除きデータを削除した場合は、そのフィールドのデータは画面上では空欄で表示されます。

ユーザを一括削除する:

ダウンロードしたユーザリストから削除しないユーザを取り除きます。ユーザの一括登録/変更/削除画面でユーザリストを指定し、[削除]ボタンをクリックします。すると、ユーザアカウントが削除されます。



ユーザの成績データや学習履歴なども削除され、復元することはできません。

ユーザの履歴データをアカウント間で移行する

ユーザの履歴データ移行ツールは、例えば、学部と大学院で別々に作成されたアカウントを 1 つのユーザ ID に統合することができます。

ユーザの履歴データを移行するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「ユーザの履歴データ移行」をクリックします。

移行元のユーザ ID が持つ授業メンバー情報や学習履歴などの履歴データが移行先のユーザ ID に紐付け直します。



移行元のユーザ ID のメッセージは移行先に統合できません。

移行後、移行元のユーザ ID は削除されます。

ユーザ ID 入力フォーム

[移行するユーザを確認する]
ボタン
実行ログ

1 入力フォームに移行元ユーザ ID、移行先ユーザ ID の順番で、カンマ(,) やスペース、タブ文字で区切って入力します。



重複するユーザ ID を統合するには、移行元のユーザ ID を一度別のユーザ ID に変更する必要があります。

2 [移行するユーザを確認する] ボタンをクリックし、移行するデータを確認します。

3 問題がなければ、[移行処理を実行する] ボタンをクリックします。



過去に実行された移行処理結果は「実行ログ」からダウンロードすることができます。

授業を作成する

システム管理者は行われる授業ごとに授業を作成しなければいけません。この章では、授業を作成および削除する方法を説明します。

授業管理について

システム管理者メニューに表示される「授業管理」をクリックし、メニューを展開します。展開されたメニュー中の「登録/変更/削除」をクリックし、授業の登録/変更/削除画面を開きます。



この画面では授業を新規作成したり、既存の授業を削除もしくは授業情報を編集したりすることができます。既存の授業を操作するには、学部学科名や時間割情報、授業名や授業 ID、授業担当者などの検索条件を指定し、[授業検索] ボタンをクリックして該当する授業を表示させてください。なお、検索条件にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。「学生として見る」から学生モードとなって User 権限での教材の表示状況を、また、「先生として見る」から授業管理者モードとなって設定や成績を確認することができます。

学部学科設定をする:

学部学科を設定することで学部や学科ごとに授業を表示することができます。曜日時限情報が設定されていない授業は、学習支援システム(WebClass)の時間割画面の下へリスト表示されますが、学部・学科が設定されている授業は学部・学科ごとにグルーピングされて表示がされます。「学部・学科の登録・変更・削除」をクリックしてください。学部学科を追加する場合、「新しい学部名」もしくは「新しい学科名」に学部もしくは学科名を入力して[追加]ボタンをクリックします。また、学部もしくは学科名を変更する場合は、一覧から現在の学部学科名を選択して上書きし、[更新]ボタンをクリックします。なお、授業リスト画面に表示される授業は名前順に並びますが、学部および学科の順番は[上へ]・[下へ]ボタンで変更できます。

授業を非公開にする:

[この授業をロック]ボタンをクリックします。すると、ユーザとゲストユーザは、成績データを除く、その授業に作成されたすべての教材を利用できなくなります。



ロックされた授業は、授業管理者権限で利用することができます。

The screenshot shows a web application interface for course management. On the left is a sidebar with navigation options like '授業管理' (Course Management) and 'システム管理' (System Management). The main area displays a search form for courses, with a dropdown menu for 'ステータス' (Status) set to 'ロックされた授業を表示' (Show locked courses). Below the search form is a table of course results. The table has columns for '授業名' (Course Name), '学年' (Year), '曜日' (Day), '時間' (Time), and '操作' (Action). The '操作' column contains two buttons: '[この授業を公開]' (Publish this course) and '[この授業を削除]' (Delete this course). Red callout boxes with arrows point to the 'ロックされた授業を表示' dropdown and the two buttons in the table.

なお、ロックされた授業を表示するには、「ロックされた授業を表示」ステータスを選択してください。[この授業を公開]ボタンをクリックします。すると、ロックが解除され、授業が公開されます。また、[この授業を削除]ボタンをクリックします。すると、授業に記録された学習履歴やログも含めて削除されます。



間違えて削除してしまった授業は、復元することができます。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

授業を登録する

システム管理者メニュー「授業管理」>「登録/変更/削除」>「新規作成」をクリックします。授業の登録/変更/削除画面の新規作成フォームに以下の授業情報を登録し、[新規作成]ボタンをクリックします。

属性	必須	文字種	字数	備考
学部		半角・全角文字	60 字	漢字を使用できません
学科		半角・全角文字	60 字	漢字を使用できません
授業 ID		半角英数字 _ -	32 字	重複する授業 ID は登録できません 大文字・小文字は区別されます
授業名	○	半角・全角文字	255 字	重複する授業名は登録できません 漢字を使用できません
授業の説明		半角・全角文字	255 字	漢字を使用できません
授業管理者	○			授業メンバー一覧表からも選択できます
時間割情報				授業が開講される年度と学期、また最大 3 コマまでの曜日と時限を設定できます



授業 ID が空欄で作成します。すると、自動的に授業 ID が割り振られます。

また、授業情報を変更する場合は、編集後に[更新]ボタンをクリックしてください。

授業と授業メンバーを一括登録する

システム管理者メニュー「授業管理」>「授業&メンバー一括登録」をクリックし、「B.ファイルによる一括登録の場合」下にあるサンプルファイルをダウンロードしてください。



併せて授業管理者マニュアル「授業メンバーを登録する」をご確認ください。

データファイル
メンバーリスト
新規登録/更新



1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで編集します。

フィールド	設定項目	必須	説明
course_id	授業 ID	△	重複する授業 ID は登録できません 空欄の場合はランダムな英数文字列を自動的に割り振られます
lock	授業をロックする		授業をロックするにはカラムに「1」を指定し、解除するには空欄にします
delete	授業を削除する		授業を削除するにはカラムに「1」を指定します
member_restriction	メンバー限定モード		登録したメンバー以外が授業を利用できないようにするには、カラムに「1」を指定します
level1	学部名		
level2	学科名		
year	開講年度		
semester	学期		
day_of_week/N	曜日		時間割に最大 3 コマまで設定できます
class_order/N	時限		時間割に最大 3 コマまで設定できます
course_name	授業名	○	重複する授業名は登録できません
course_name_en	授業名(別表記)		英語表示で表記されます
course_memo	授業の説明		
(course_memo 以降の列)	授業メンバー	授業管理者のユーザ ID	メンバー登録するユーザ ID を末尾の各カラムに 1 つずつ入力します(1 ユーザごとにコンマで区切る) 授業権限はユーザ権限に従って設定されます



設定値は CSV ファイル先頭に入力されたフィールド名によって区別されています。
新規登録の際は「必須」にマークされたフィールドおよびその設定値は必ず入力してください。

- 作成したデータファイルを指定します。
- 「メンバーリスト」で「現在のメンバーリストに追加/更新」を選択し、[登録] ボタンをクリックします。

授業メンバー一覧表からメンバーを登録もしくは削除する:

システム管理者メニュー「授業管理」>「授業&メンバー一括登録」をクリックし、授業&メンバー一括登録/変更画面を開いたら、「A.一覧表から選択する場合」にある「一覧表を開く」リンクをクリックします。



登録済みの授業に対して授業メンバーの追加登録および削除を行います。

授業メンバー一覧のダウンロード

このウィンドウを閉じる

[再表示] ボタン

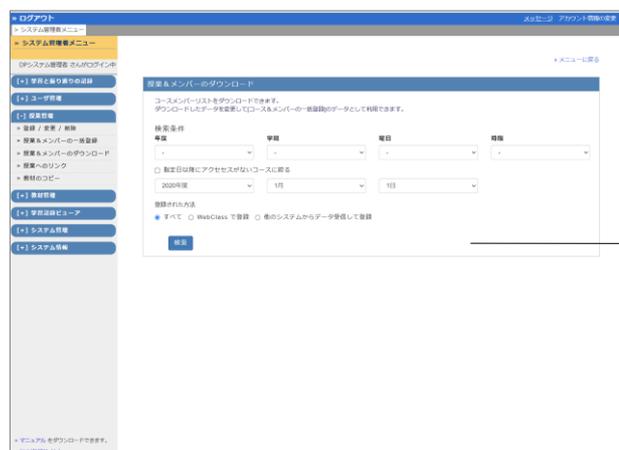
[更新] ボタン

更新	種別	氏名	ユーザID	WebClass Template Course 登録	基礎工字定修(基礎) 登録	基礎工字定修(演習) 登録	更新
<input type="checkbox"/>	user	user1	user1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user10	user10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user11	user11	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user12	user12	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user13	user13	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user14	user14	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user15	user15	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user16	user16	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user17	user17	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user18	user18	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user19	user19	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user2	user2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user20	user20	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user3	user3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user4	user4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user5	user5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user6	user6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user7	user7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user8	user8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	user	user9	user9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

- 1 表示する授業と登録するユーザを検索条件「Courses (row)」と「Users (line)」で指定し、[再表示] ボタンをクリックします。なお、検索条件「担当者」と「授業名」、「ユーザ ID」にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。
- 2 授業メンバーとなるユーザのチェックボックスにチェックが入るように修正し、[更新] ボタンをクリックします。

授業&メンバーリストを使って授業情報とメンバーを一括更新する

年度や学期などの検索条件で指定した授業とそれらの授業に登録されている授業メンバーのリストを CSV ファイルでダウンロードすることができます。システム管理者メニュー「授業管理」>「授業&メンバーのダウンロード」をクリックしてください。



検索条件
[検索]ボタン

- 1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで開き、メンバー登録するユーザ ID を末尾の各カラムに 1 つずつ入力し、保存します。



授業 ID を変更します。すると、別の授業として作成されます。また、時間割情報などの授業情報を変更します。すると、授業情報も同時に更新されます。



フィールドのデータを変更した場合、新しく入力されたデータでユーザ情報が上書きされます。例えば、新しく学部学科を level1 や level2 に入力し、取り込むと、新たに学部学科が画面上に追加されます。また、データを削除した場合は、そのフィールドのデータは画面上では空欄で表示されます。

- 2 次に先ほど保存した CSV ファイルをデータファイルとして指定し、メンバーリストの更新方法を選択し、[登録]ボタンをクリックします。



授業メンバーを一新する場合は「古いメンバーを削除してから追加」を選択してください。それ以外は「現在のメンバーリストに追加/更新」が選択された状態で登録してください。

授業&メンバーリストを使って授業を一括削除する:

- 1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで開き、削除したい授業の「delete」カラムに「1」を入力し、保存します。
- 2 次に先ほど保存した CSV ファイルをデータファイルとして指定し、「メンバーリスト」を「現在のメンバーリストに追加/更新」に選択した状態で、[登録]ボタンをクリックします。



間違えて削除された授業は、復元することができます。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

授業のリンク集を作成する

直接授業へアクセスできる HTML ファイルを生成することができます。システム管理者メニュー「授業管理」>「授業へのリンク」をクリックしてください。



生成するリンク集には年度や学期などの検索条件を指定して表示する授業を絞り込むことができます。



リンク集から授業へアクセスする場合でもログイン画面での認証が必要です。

教材を別の授業へコピーする

授業に作成されたすべての教材を別の授業へコピーすることができます。システム管理者メニュー「授業管理」>「教材のコピー」をクリックします。すると、教材のコピー画面が表示されます。



- 1 検索条件を指定して「コピー元授業」と「コピー先授業」を選択します。
- 2 [教材をコピーする] ボタンをクリックします。

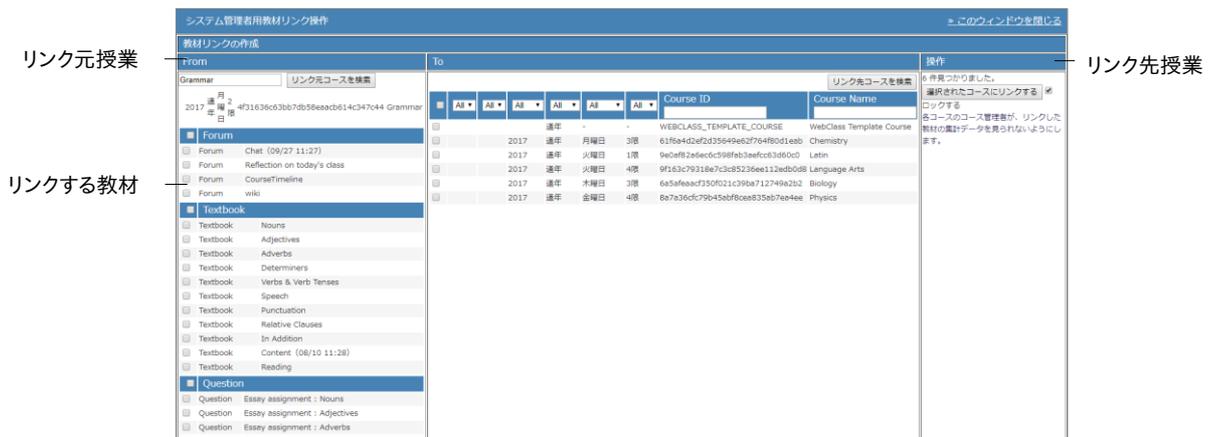


コピー先の授業に同名の教材が存在する場合、その教材はコピーされません。

教材リンクを作成する

教材リンクは、学期末に実施する授業アンケートのように共通する教材を各授業で実施および成績データを一元管理するために、容易に教材を各授業にリンクしたり、リンクを解除したりできます。

システム管理者メニュー「教材管理」>「教材リンクの作成/解除」をクリックします。すると、システム管理者用教材リンク操作画面が表示されます。



- 1 「教材リンクの作成」を選択し、[操作を選択] ボタンをクリックします。
- 2 「From」に授業名を指定し、[リンク元授業を検索] ボタンをクリックします。
 リンク元の授業名を完全一致で入力してください。
- 3 「To」で検索条件を指定し、[リンク先授業を検索] ボタンをクリックします。
- 4 リンクする教材およびリンク先の授業を「From」および「To」から選択し、[選択された授業にリンクする] ボタンをクリックします。

教材リンクを解除する:

システム管理者メニュー「教材管理」>「教材リンクの作成/解除」をクリックします。すると、システム管理者用教材リンク操作画面が表示されるので、「教材リンクの解除」を選択し、[操作を選択] ボタンをクリックします。

「リンク元の授業」を指定し、[リンク元の授業を検索] ボタンをクリックします。[これらのリンクを解除する] ボタンをクリックします。すると、教材リンクが各授業から削除されます。



リンク元の授業名を完全一致で入力してください。

稼働状況を集計する

システム管理者はログイン回数や利用時間などの稼働情報を確認することができます。この章では、これらの情報を確認する方法を説明します。

システム情報について

システム管理者メニューに表示される「システム情報」をクリックし、メニューを展開します。

ログイン状況では現在学習支援システム(WebClass)にログインしているユーザーを確認することができます。また、ユーザーがログインした回数や利用時間は**アクセスログ**で確認することができます。なお、授業の稼働状況を確認するには**利用状況集計**を用います。

システムログファイルでは日ごとに出力された各ユーザーのログファイルをダウンロードすることができます。この機能の利用を希望される場合は、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

異常終了データを削除する

ブラウザの不正終了など正規の手順でログアウトしなかった場合、そのユーザー ID がログインしていることになっている場合があります。学習支援システム(WebClass)は2時間以上でそのようなユーザーのセッションを破棄しますが、システム管理者は手動で異常終了データを削除することができます。システム管理者メニュー「システム情報」>「ログイン状況」をクリックします。

[更新] ボタン
[異常終了データの削除] ボタン

ユーザーID	氏名	ログイン時刻
GuestUser	システム管理者	2025-10-13 15:37:55

ログイン状況画面には現在学習支援システム(WebClass)にログインしているユーザのユーザ ID や氏名、ログイン時刻が表示されます。[異常終了データの削除] ボタンをクリックし、古いセッション情報を削除します。

アクセスログをダウンロードする

システム管理者メニュー「システム情報」>「アクセスログ」をクリックします。すると、アクセスログ画面が開き、ユーザごとにログイン回数や合計利用時間が集計されます。



合計時間に異常終了した時の利用時間は含まれません。

集計期間
検索条件

[ログ表示] ボタン
[ログ削除] ボタン

- 1 集計するユーザを絞り込むため「集計期間」と「検索条件」を指定して、[検索] ボタンをクリックします。「検索条件」にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。
- 2 [ログ表示] をクリックします。すると、用いた端末の IP アドレスや利用時間、ログインおよびログアウト時刻が表示されます。
- 3 表の左上にある「ダウンロード」をクリックし、ローカルにログファイルを保存します。他のユーザの詳細を確認するには「ユーザー一覧形式に戻る」をクリックしてください。

[ログ削除] ボタンをクリックします。すると、該当するユーザのアクセスログがデータベースから削除されます。

各授業の利用状況を確認する

システム管理者メニュー「システム情報」>「利用状況集計」をクリックします。すると、学習支援システム(WebClass)の利用状況集計画面が表示されます。

検索条件
[表示]ボタン

結果をダウンロード

ユーザ種別	アクティブ	非アクティブ	合計
admin	6	203	74:12:11
author	309	1648	290:30:36
user	71	499	162:29:02
合計	386	2350	527:11:49
合計	0	0	00:00:00

検索条件を指定し、[表示]ボタンをクリックします。集計結果には以下のような情報が表示されます。

カテゴリ	関係する検索条件	集計できる項目の説明
登録ユーザ	集計期間	指定期間内に1回以上ログインしたユーザを対象にユーザ数、ログイン回数、合計時間を集計します
授業利用状況	学部、学科 開講年度	検索条件に一致した授業を集計します(教材数、メンバー数) 教材数には出席教材、タイムライン(1回以上授業にアクセスしている)、シラバス(内容を削除したシラバスも含む)も含まれます
	集計期間	指定期間中のメッセージ数、ログイン回数、合計時間を集計します
	各授業のディスク 使用量を表示する	授業が使用しているディスク容量を集計します
授業ごとの教材利用状況	学部、学科 開講年度	検索条件に一致した授業に登録されている教材数を集計します 教材数には出席教材も含まれます
時間帯別ログイン 数グラフ	集計期間	指定期間中のアクセス数と合計時間を集計します
	集計期間	ある時間帯にユーザがログインに成功した回数を、集計期間の合計で集計します
時間帯別レポート 提出数グラフ	学部、学科 開講年度	ある時間帯にユーザがレポート提出課題にレポートファイルをアップロードした回数を、集計期間の合計で集計します

なお、表示された集計結果をダウンロードするには「この結果をダウンロード」から保存してください。

より深く学習支援システム (WebClass)を知る

学習支援システム (WebClass) で授業を運用するために役立つ情報を掲載したリンクをご紹介します。

リンク集

システム管理者向け資料:サーバ管理に関する情報を中心に紹介します。

- [https://学習支援システム \(WebClass\).jp/documents](https://学習支援システム (WebClass).jp/documents)

先生 (授業管理者) 向け資料:主な機能について、やりたいことが実現できる機能を動画などで説明します。

- [https://学習支援システム \(WebClass\).jp/documents/course-manage](https://学習支援システム (WebClass).jp/documents/course-manage)

FAQ:サポートのよくあるご質問と回答を紹介します。

- [https://datapacific.zohodesk.com/portal/ja/kb/学習支援システム \(WebClass\)-faq](https://datapacific.zohodesk.com/portal/ja/kb/学習支援システム (WebClass)-faq)

学習支援システム (WebClass) R&D Team Blog:新しい機能や技術、Tips、不具合などの情報を更新しています。

- [https://学習支援システム \(WebClass\).jp/blog/](https://学習支援システム (WebClass).jp/blog/)

© 2012 DATA PACIFIC (JAPAN) LTD.

本書の一部または全部を事前に承諾を得ることなく複製および転載することを禁じます。

本書に記載されたその他の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

レポート相互評価機能である「ピアレビュー機能」の開発にあたり大阪大学大学院 法学研究科の田中規久雄先生にご協力をいただきました。

システム中で使われている用語の見直し、SCORM1.2 や LOM への対応など、システム全体に渡る改善について電気通信大学 e-learning 推進センター様にご指導いただきました。

メッセージ機能や時間割表示機能など、学習支援システム (WebClass) のポータルサイト化にあたり金沢大学の総合メディア基盤センター様ならびに ICT 教育推進室様にご協力いただきました。

将来、学生が学習履歴を振り返って見られるようなデータ保存方法や年度管理方法について東京学芸大学様よりご指導いただきました。

SCORM 2004 対応にあたり、放送大学と千葉工業大学情報科学部による共同研究の成果物である ELECOA Player (<http://elecoa.ouj.ac.jp>) を改変し、使用させていただきました。

タブレットでの利用を想定した機能の開発にあたり追手門学院大学様にご協力いただきました。